

もう悩まなくていい。

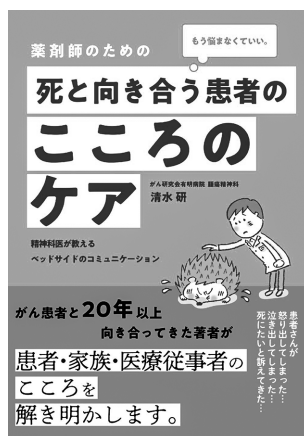
薬剤師のための 死と向き合う患者のこころのケア 精神科医が教えるベッドサイドのコミュニケーション

著：清水 研（がん研究会有明病院 腫瘍精神科）

今から10年前、国立がん研究センター中央病院の緩和医療科レジデントであった私は、清水研先生のもとでサイコオンコロジーを学ぶ機会に恵まれました。ある日、清水先生に呼び出され、「あなたの自己効力感の高さは他の医療者、ひいては患者を傷つけるかもしれない」という指摘を受けたことがあります。私は情熱をもって、全力で患者さんのつらさに対処しようとしていましたが、「あなたがいなくても、この患者さんは自己回復の力をもっています。また、あなた以外でも幸せにすることができます」との言葉に、私は深い悩みに陥りました。

医療者として、困難を抱える患者さんを救いたいと思うのは自然なことでしょう。しかし、その熱意や責任感が患者さんの心の方向と一致しないとき、患者さんは心を閉ざし、医療者は葛藤することになります。本書では、清水先生と正義感に燃える&迷える薬剤師を中心に、心に傷を抱えながらも自己の価値観と向き合う患者さん、治療を担う医師たち、そしてサポート的なスタンスの看護師など、多様なキャラクターが生き生きと描かれています。そしてユーモラスな描写には、読者の想像力がたとえ豊かではなくてもその場にいるかのような臨場感があり、コミュニケーションの課題とそれを乗り越える道筋が描かれています。本書は「薬剤師のための」とあるものの、看護師や医師にも大いに参考になることは間違いありません。コミュニケーションスキル、患者さんや医療者の心の向きの変化やメタ認知などの要素がふんだんに盛り込まれています。

そして本書は、ただ実践的な知識やスキルを教えるだけではありません。医療チームのメンバーが互いに支え合い、患者さんが自己と向き合う意義や回復の力（レジリエンス）を信じ見守ること、さらに困難を経験した後の成長力（外傷後成長）が人間に備わっている、という大切なメッセージを伝えようとしています。10年前、私が受けた衝撃は数週間の深い悩みをもたらしましたが、患者さんの心の動きや時間の意味を理解しようと



A5判/244頁

定価：3,300円（本体3,000円＋税10%）

発刊：じほう（2023年3月）

する大きなきっかけとなり、私の自己効力感が、他のメンバーからの支援を妨げ、患者さんにとっても重荷になっていることに気づくことができました。今もまだ、まだまだですが、患者さんの回復を待つことやチームメンバーを信頼することができ、自分以上に適切なアプローチをしてくれると考えられるようになりました。

「自己を保つ」ためにケアを提供していませんか？熱心な医療者ほど陥りやすい、そして患者さんにとって野暮なサポートになってしまうこともあるかもしれません。タイトルの「薬剤師のための」は不要ではないかと思えるほど、生命を脅かす病を抱える患者さんに関わるすべての人々が読む価値があると、私は心から感じています。

やまと在宅診療所登米

東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野

田上 恵太